



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月8日
東・福

上場会社名 株式会社三越伊勢丹ホールディングス 上場取引所
コード番号 3099 URL <http://www.imhds.co.jp>
代表者(役職名) 代表取締役社長執行役員(氏名) 大西 洋
問合せ先責任者(役職名) 業務本部総務部コーポレートコミュニケーション担当長(氏名) 滝口 一雄 (TEL) 03-5843-5115
四半期報告書提出予定日 平成25年11月11日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日~平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	602,850	4.9	12,630	54.7	13,423	101.4	7,440	326.7
25年3月期第2四半期	574,931	△1.5	8,163	△9.8	6,666	△57.5	1,743	△91.5

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 19,608百万円(420.2%) 25年3月期第2四半期 3,769百万円(△82.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	18.86	18.80
25年3月期第2四半期	4.42	4.41

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	1,217,400	520,253	41.5
25年3月期	1,223,677	505,127	40.1

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 504,900百万円 25年3月期 491,001百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	11.00	11.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日~平成26年3月31日)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,300,000	5.1	32,500	22.0	34,000	△0.6	20,000	△20.9	50.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P5「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年3月期2Q	394,817,614株	25年3月期	394,787,494株
26年3月期2Q	271,004株	25年3月期	261,557株
26年3月期2Q	394,534,016株	25年3月期2Q	394,502,343株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日～平成25年9月30日)におけるわが国経済は、政府による景気対策等により、企業業績や個人消費が回復基調となり明るい兆しを見せました。しかしながら、為替や株価には不安定な要素も見られ、今後も楽観視できる経済状況にはありません。百貨店業界におきましても高額品を中心に堅調な動きが見られたものの、来年以降の消費増税等、先行きに対する不安は払拭できていません。

このような状況下、当社グループは「常に上質であたらしいライフスタイルを創造し、お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つことを通じて、お客さま一人ひとりにとっての生涯にわたるマイデパートメントストアとなり、高収益で成長し続ける世界随一の小売サービス業グループ」の実現に向けた取組みを推進いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は602,850百万円(前年同四半期比4.9%増)、営業利益は12,630百万円(前年同四半期比54.7%増)、経常利益は13,423百万円(前年同四半期比101.4%増)、四半期純利益は7,440百万円(前年同四半期比326.7%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①百貨店業

中核の百貨店業におきましては、本年3月にグランドオープンした伊勢丹新宿本店が引き続き好調を維持していることに加え、三越日本橋本店、三越銀座店においても高額品を中心に堅調に推移し、基幹3店は全店増収となりました。

支店・国内グループ百貨店においては、徹底したエリアマーケティングを基に、既存の百貨店の枠にとられず地域毎に異なる顧客ニーズに合わせた店舗のあり方を追求した「あたらしい地域百貨店のビジネスモデル」の展開を進めております。その第一弾として「こどもが、まんなか」をテーマに伊勢丹松戸店を10月2日にリモデルオープンし、多くの家族連れでにぎわっています。

顧客接点の拡大と充実に向けた中小型店舗については、既に「イセタンミラー」、「イセタンアウトレットストア」等の複数のフォーマットを開発・出店し、さらに9月には、あたらしい編集型小型店のビジネスモデルとして、「エムアイプラザ」の1号店を青梅市河辺に、10月には仙台市にオープンしております。この編集型小型店を首都圏や地方大都市圏において、百貨店をコアとした多店舗展開を進め、効率的なチェーンオペレーションを実施することで、収益事業へと成長させて参ります。さらには、百貨店としての出店が難しいエリアにも単独出店することで顧客接点を広げ、新規顧客の獲得を図ります。

WEB事業におきましては、今春に推進体制を整備したことに加え、EC専用倉庫の稼働、サイトのスマートフォン対応等「百貨店EC」拡大に向けた取組みを推進いたしました。さらに、今後のメディアビジネスへの発展を見据えた「FASHION HEADLINE」や「ISETAN PARK net」等による情報発信を進め、サイト閲覧数を大幅に伸ばしています。

これらの店舗・事業における収益向上策として、これまで百貨店中心であった仕入構造改革の展開チャネルを小型店や百貨店ECにも拡大しています。高差益かつ新しい価値を持つ商品の展開を拡大し、販売力向上の取組みと連携することで、店舗・事業の独自性と収益性を高めて参ります。

海外におきましては、引き続き堅調な成長が見込まれる中国・東南アジア地域での市場の開拓と深耕に取り組んでおります。

なお、このセグメントにおける、売上高は546,022百万円（前年同四半期比4.9%増）、営業利益は7,446百万円（前年同四半期比50.5%増）となりました。

②クレジット・金融・友の会業

クレジット・金融・友の会業におきましては、株式会社エムアイカードがカード会員数の拡大により、百貨店取扱高を増やすと共に、公共料金の支払いにご利用いただくなど外部取扱高の拡大、金融サービスの強化を図りました。

なお、このセグメントにおける、売上高は15,967百万円（前年同四半期比6.3%増）、営業利益は2,144百万円（前年同四半期比4.7%減）となりました。

③小売・専門店業

小売・専門店業におきましては、株式会社三越伊勢丹フードサービスが、品質を第一に「日常の安心」と「こだわりの楽しさ」を提案する食生活のサポーターとして、地域のお客様の期待に応える取り組みを推進し、5月には「クイーンズ伊勢丹武蔵境店」をオープンいたしました。また、食品宅配事業については株式会社三越伊勢丹通信販売から事業移管すると共に、オイシックス株式会社と相互の宅配事業の連携を11月より開始し、商品数を約2倍に拡大いたします。

株式会社三越伊勢丹通信販売は、新規顧客の獲得を目指し新カタログ「I'm（アイム）」を創刊するとともに、日本郵便株式会社との間で両者の強みを活かした新しいビジネスモデルを構築すべく、合弁会社「株式会社 JP 三越マーチャンダイジング」の設立に向けた準備を行っております。またこれに先立ち、株式会社郵便局物販サービスは株式会社三越伊勢丹通信販売が商品をセレクトした新たな総合カタログを10月から発刊し、約5,000局の郵便局で展開しております。

なお、このセグメントにおける、売上高は40,435百万円（前年同四半期比2.0%減）、営業損失は840百万円（前年同四半期は営業損失885百万円）となりました。

④不動産業

不動産業におきましては、株式会社三越伊勢丹ビルマネジメントが、営業支援および省エネ・防災関連業務に取り組み、グループ内の建物管理業務の受託店舗を拡大しております。

なお、このセグメントにおける、売上高は18,013百万円（前年同四半期比26.0%増）、営業利益は3,060百万円（前年同四半期比572.6%増）となりました。

⑤その他

その他におきましては、情報処理サービス業の株式会社三越伊勢丹システム・ソリューションズ、物流業の株式会社三越伊勢丹ビジネス・サポート、人材サービス業の株式会社三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ等が、営業支援体制の効率化促進や、外部営業強化に向けた取り組みを実施しました。

なお、このセグメントにおける、売上高は34,555百万円（前年同四半期比1.9%減）、営業利益は704百万円（前年同四半期比43.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は1,217,400百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,277百万円減少しました。これは主に、持分法適用会社に対する持分相当額の増加により投資有価証券が増加した一方、季節要因により受取手形及び売掛金が減少したことなどによるものです。

負債合計では697,147百万円となり、前連結会計年度末から21,403百万円減少しました。これは主に、支払手形及び買掛金が減少したことなどによるものです。

また、純資産は520,253百万円となり、前連結会計年度末から15,126百万円増加しました。これは主に、四半期純利益計上により利益剰余金が増加したこと、及び為替換算調整勘定が増加したことなどによるものです。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前第2四半期連結累計期間末に比べて3,529百万円増加し、34,794百万円となりました。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、6,103百万円の収入となり、前第2四半期連結累計期間における28,383百万円の支出に対し、34,486百万円の収入増加となりました。これは主に、前第2四半期連結累計期間はカード債権流動化による資金調達の返済が行われたことなどによるものです。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、9,058百万円の支出となり、前第2四半期連結累計期間に比べ支出が2,631百万円減少しました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が3,612百万円減少したことなどによるものです。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、860百万円の支出となり、前第2四半期連結累計期間における17,974百万円の収入に対し、18,834百万円の支出増加となりました。これは主に、有利子負債による資金調達額が減少したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期売上高の予想につきましては、個人消費が回復基調であることに加え、中核の百貨店業の業績が前年を上回る等好調を維持していることから、前回発表予想を上回る1,300,000百万円になる見込みであります。

また、営業利益は32,500百万円、経常利益は34,000百万円、当期純利益は20,000百万円を予想しております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	38,630	38,358
受取手形及び売掛金	110,793	100,178
有価証券	159	149
商品及び製品	54,470	57,683
仕掛品	58	115
原材料及び貯蔵品	1,346	1,208
その他	50,297	47,454
貸倒引当金	△2,882	△3,000
流動資産合計	252,872	242,148
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	177,841	175,355
土地	532,926	532,166
その他(純額)	17,911	19,302
有形固定資産合計	728,679	726,823
無形固定資産		
ソフトウェア	13,430	13,194
その他	36,999	37,122
無形固定資産合計	50,429	50,316
投資その他の資産		
投資有価証券	94,026	100,682
その他	97,994	97,579
貸倒引当金	△361	△276
投資その他の資産合計	191,659	197,985
固定資産合計	970,769	975,125
繰延資産		
社債発行費	35	125
繰延資産合計	35	125
資産合計	1,223,677	1,217,400

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	115,474	101,592
1年内償還予定の社債	12,000	—
短期借入金	43,463	71,939
コマーシャル・ペーパー	46,000	17,000
未払法人税等	3,707	6,329
商品券回収損引当金	21,306	20,668
引当金	13,493	11,229
その他	171,181	158,914
流動負債合計	426,627	387,673
固定負債		
社債	12,000	32,000
長期借入金	67,800	64,800
繰延税金負債	152,698	152,996
退職給付引当金	38,162	38,481
引当金	26	51
持分法適用に伴う負債	3,991	4,276
その他	17,244	16,868
固定負債合計	291,923	309,474
負債合計	718,550	697,147
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,118	50,133
資本剰余金	325,077	325,092
利益剰余金	125,171	128,384
自己株式	△243	△257
株主資本合計	500,124	503,352
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,316	1,394
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	△7,806	154
その他の包括利益累計額合計	△9,122	1,548
新株予約権	1,441	1,255
少数株主持分	12,683	14,096
純資産合計	505,127	520,253
負債純資産合計	1,223,677	1,217,400

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	574,931	602,850
売上原価	413,226	432,289
売上総利益	161,705	170,560
販売費及び一般管理費	153,541	157,930
営業利益	8,163	12,630
営業外収益		
受取利息	461	451
受取配当金	455	508
持分法による投資利益	—	2,010
負ののれん償却額	6,617	—
その他	1,302	1,503
営業外収益合計	8,836	4,473
営業外費用		
支払利息	789	676
持分法による投資損失	7,452	—
固定資産除却損	283	734
その他	1,808	2,269
営業外費用合計	10,333	3,680
経常利益	6,666	13,423
特別利益		
固定資産売却益	—	29
投資有価証券売却益	—	39
特別利益合計	—	69
特別損失		
固定資産売却損	935	30
固定資産処分損	619	—
減損損失	—	386
投資有価証券評価損	717	—
その他	—	86
特別損失合計	2,272	503
税金等調整前四半期純利益	4,394	12,989
法人税等	2,398	5,279
少数株主損益調整前四半期純利益	1,995	7,710
少数株主利益	252	270
四半期純利益	1,743	7,440

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,995	7,710
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△331	1,456
繰延ヘッジ損益	△1	△1
為替換算調整勘定	629	3,717
持分法適用会社に対する持分相当額	1,476	6,724
その他の包括利益合計	1,773	11,897
四半期包括利益	3,769	19,608
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,254	18,110
少数株主に係る四半期包括利益	514	1,497

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,394	12,989
減価償却費	11,516	11,720
減損損失	—	386
負ののれん償却額	△6,617	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△3,001	△3,068
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△197	30
退職給付引当金の増減額(△は減少)	191	58
受取利息及び受取配当金	△916	△960
支払利息	789	676
持分法による投資損益(△は益)	7,452	△2,010
固定資産売却損益(△は益)	935	0
投資有価証券評価損益(△は益)	717	—
売上債権の増減額(△は増加)	13,093	10,552
たな卸資産の増減額(△は増加)	△923	△2,268
仕入債務の増減額(△は減少)	△15,476	△15,284
未払費用の増減額(△は減少)	△5,178	△5,599
未払金の増減額(△は減少)	△34,088	△4,175
その他	△111	2,582
小計	△27,419	5,630
利息及び配当金の受取額	2,882	3,983
利息の支払額	△796	△649
法人税等の支払額	△3,049	△2,860
営業活動によるキャッシュ・フロー	△28,383	6,103
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,820	△3,564
定期預金の払戻による収入	2,137	3,225
有形固定資産の取得による支出	△11,369	△7,756
有形固定資産の売却による収入	543	1,320
無形固定資産の取得による支出	△2,811	△2,465
敷金及び保証金の回収による収入	2,233	1,040
その他	△602	△857
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,689	△9,058
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,818	14,976
長期借入れによる収入	—	20,000
長期借入金の返済による支出	△1,500	△10,000
社債の発行による収入	—	19,892
社債の償還による支出	—	△12,000
コマーシャル・ペーパーの純増減額(△は減少)	26,000	△29,000
配当金の支払額	△3,913	△3,914
その他	△793	△814
財務活動によるキャッシュ・フロー	17,974	△860
現金及び現金同等物に係る換算差額	346	2,127
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△21,752	△1,687
現金及び現金同等物の期首残高	53,017	35,781
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	701
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,265	34,794

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	百貨店業	クレジット・金融・友の会業	小売・専門店業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	519,896	7,114	34,421	6,434	567,865	7,065	574,931	—	574,931
セグメント間の内部 売上高又は振替高	789	7,902	6,825	7,858	23,375	28,162	51,538	△ 51,538	—
計	520,686	15,016	41,246	14,292	591,241	35,228	626,469	△ 51,538	574,931
セグメント利益又は損失(△)	4,948	2,251	△ 885	454	6,769	1,256	8,025	137	8,163

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額137百万円は、セグメント間未実現利益等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	百貨店業	クレジット・金融・友の会業	小売・専門店業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	545,185	7,932	33,629	9,205	595,952	6,898	602,850	—	602,850
セグメント間の内部 売上高又は振替高	837	8,035	6,805	8,807	24,486	27,656	52,143	△52,143	—
計	546,022	15,967	40,435	18,013	620,438	34,555	654,994	△52,143	602,850
セグメント利益又は損失(△)	7,446	2,144	△840	3,060	11,810	704	12,514	115	12,630

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額115百万円は、セグメント間未実現利益等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。